

ぎよふう こうこがく - 御風とヒスイと考古学 -



そうしょくひん
ヒスイの装飾品

糸魚川市長ケ原考古館イメージキャラクター「たまちゃん」

やく ねんまえ じょうもんじん いといがわ じちとさん かこう はじ たいしゅ そうしょくひん ひじょう ちんちょう
約5,500年前、縄文人が糸魚川で地元産のヒスイの加工を始め、「大珠」などの装飾品として非常に珍重されましたが、
なら じだい ころ りょう いといがわ と わす さ
奈良時代以降は利用されなくなり、糸魚川でヒスイが採れることも忘れ去られてしまいました。

しょうわ はい いといがわ いじん そうまぎょう いせきはくつ と く ちほう おき めな がわ
昭和に入り、糸魚川の偉人「相馬御風」は、遺跡発掘にも取り組んでいたことから、この地方を治めていた「奴奈川
ひめ たまつく かんれんせい おも いた れきし き いといがわさん ちじん はな
姫」と「玉造り」との関連性に思い至り、歴史から消えたヒスイが糸魚川産なのではないかと知人に話します。このこと
げんざい こたぎち ない みどりいろ いし はっけん かかくてき ぶんせき へ いし
がきっかけになり、現在の小滝地内で緑色のきれいな石が発見され、化学的な分析を経て、この石が「ヒスイ」であるこ
しょうめい さいはっけん ぎょうふう
とが証明されました。「ヒスイの再発見」は、「御風のひらめき」のおかげだったのです。

応募する部門（いずれかに○）

- 1 未就学児の部 2 小学生・中学生の部 3 高校生・一般の部

ペンネーム

※整理番号